

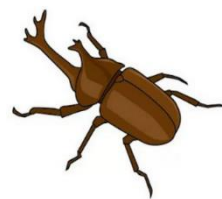


のびのび若っ子

学びの芽を育む

校長 池田 千穂

あつという間に梅雨があけて、一気に夏がやってきました。残念ながら、熱中症警戒レベルが高く、外遊びができない日もありましたが、2年ぶりの水泳学習は夏空の下、オアスタッフの協力も得て、無事に実施できました。朝、校門では、子ども達が、立派なカブトムシやクワガタを見せてくれます。「そこで捕まえたの！」若葉台は本当に自然にも恵まれた地域だと思いました。



さて、本校では「意欲的な学びの芽を育みます」という学校教育目標を目指し、私たちは授業改善に取り組んでいます。そのテーマは『どの子ども「わかる・できる」を実感し、主体的に学びに向かう子どもの育成』です。授業の中で子ども達の「わかった！」「できたよ！」という笑顔と喜びの声を聞くことが何よりも嬉しいことです。

昨年、引退した体操選手の内村航平さんが引退会見でこのような話をしていました。体操競技で認定されている技は800程あるそうですが、内村さんはそのうち500もの技を習得しています。「僕がこれほど多くの技を習得できたのも、技を覚える楽しさを知っているからこそだと思う。技を覚えたことで一番嬉しかった、楽しかったという記憶があるのが『蹴上がり』です。」内村さんは周りの子ども達より技の習得が遅く、鉄棒の蹴上がりが出来ようになったのは小学校1年生の頃。一人でずっと練習を続けて、ある時、ふっと出来たそうです。「誰も見ていない時にできちゃったので、みんなに知らせたくて体育館中を騒ぎ回ったんですね。蹴上りを覚えた時の記憶、感動は今でも忘れられない。500くらいの技を覚えられた原動力になっています。」難しい技を次々習得し、高得点を出してきた内村さんです

が、その原点が小学校1年生の時できた技にあったことに私は感嘆し、あらためて、小学校での経験や体験の大切さを痛感しました。そして、「わかった！」「できた！」という実感はまさに「意欲的な学びの芽」だと思います。

夏休みは、学校では経験できないようなことがいろいろできる期間です。若葉台は地域でも様々な体験や学習、祭りといった計画をして、準備してくださっています。子ども達が「学びの芽」と出会える夏休みになりますように。保護者様、地域の皆様も体調に気を付けてお過ごしください。



若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切にすることを育みます』『意欲的な学びの芽を育みます』